

『臨床整形外科』 2021 年 5 月号 正誤表

このたびは 『臨床整形外科』 をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

2021年5月号（56巻5号）増大特集「整形外科外来・当直エマージェンシーマニュアル」の「骨盤輪・寛骨臼骨折」（普久原朝海氏）におきまして、以下の誤りがございました。

ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2021 年 6 月 21 日作成

訂正箇所	誤	正	掲載
p.607 Young-Burgess 分類	APC：前方からの圧迫力により、恥骨結合が離開もしくは恥骨が骨折し(APC I)→骨盤輪が外旋して仙腸関節が亜脱臼し(APC II)→さらに後方の靱帯も損傷して完全脱臼となる(APC III). LC：側方からの外力により患側の骨盤輪が内旋し、恥骨が骨折し(LC I)→腸骨や仙骨など後方が破綻し(LC II)→最終的に健側の骨盤輪が外旋して破綻する(LC III).	【APC】前方からの圧迫力により APC1:恥骨結合離開が2.5 cm未満で仙腸関節は開いていないか、わずかに開くも仙腸関節前方の靱帯は破綻していない APC2:さらに骨盤輪が外旋して仙腸関節前方の靱帯が破綻して離開し、恥骨結合離開が2.5 cm 以上(4cm未満) APC3:さらに仙腸関節後方の靱帯も破綻して仙腸関節の完全脱臼 【LC】側方からの外力により骨盤輪が内旋し LC1:恥骨骨折と仙骨圧迫骨折 LC2:恥骨骨折と仙腸関節部分脱臼を伴う腸骨骨折=Crescent fracture(脱臼を伴わない純粋な腸骨骨折の場合もある) LC3:外力が加わった側のLC1もしくはLC2に加え、反対側の骨盤輪が外旋してAPC 損傷を合併 (Windswept pelvis)	2021/6/21



医学書院